



平成29年度

編入学生募集要項

(学校案内を含む)

事項	学力選抜
願書受付期間	平成28年7月19日(火) ～平成28年7月22日(金)
試験日	平成28年9月5日(月)
合格発表日時	平成28年9月12日(月)10時
入学手続日	平成29年3月15日(水)

※「合格通知書」は合格発表日時以降に発送します

独立行政法人 国立高等専門学校機構

北九州工業高等専門学校

NATIONAL INSTITUTE OF TECHNOLOGY, KITAKYUSHU COLLEGE

〒802-0985 北九州市小倉南区志井5丁目20番1号

電話 (093) 964-7232 学生課教務係

FAX (093) 964-7236 学生課

URL <http://www.kct.ac.jp>

目 次

編入学生募集要項

アドミッションポリシー

1. 募集学科及び募集人員	1
2. 出願資格	1
3. 志望学科	1～2
4. 願書受付期間及び場所	
(1) 受付期間	2
(2) 受付場所及び問い合わせ先	2
5. 出願手続	2
6. 選抜方法	3
(1) 学力検査科目及び出題範囲	3
(2) 学力検査及び面接の日時	3
(3) 学力検査場	3
7. 合格者発表	4
8. 個人情報の取扱い	4
9. 入学手続	4
10. その他	4

学 校 案 内	5～18
---------	------

出願書類

(本校ウェブサイトに掲載しております http://www.kct.ac.jp/nyushi/hennyugaku_boshu.html)

1. 編入学志願書、写真票、受検票、検定料振込受付証明書貼付票
2. 入学検定料の振込について
3. 住所票

編入学生募集要項

北九州高専では、本校の教育理念及び学習・教育目標を達成するために、総合的な基礎学力を十分にもち、以下の項目を満足する能力と適性を備えた人を求めています。

☆☆

－アドミッションポリシー（入学者受け入れ方針）－

「北九州高専が求める学生像」

- ・数学、理科の分野に興味があり、高等学校における基礎学力を有する者
- ・工学の分野に興味がある者
- ・実験・実習に自ら進んで取り組むことができる者
- ・国際センスと人間性を備え、社会を支える技術者として活躍する意志を持つ者

「入学者選抜の基本方針」

- ・調査書と学力検査及び面接により、本校の教育理念及び学習・教育目標を達成するための適性と高等学校における基礎学力を十分に持つ者を合格とする

☆☆

1. 募集学科及び募集人員

学 科	募 集 人 員	編 入 学 年 次
機 械 工 学 科	若 干 名	第 4 学 年 次
電 気 電 子 工 学 科	若 干 名	
電 子 制 御 工 学 科	若 干 名	
制 御 情 報 工 学 科	若 干 名	
物 質 化 学 工 学 科	若 干 名	

※物質化学工学科には、応用化学工学コースと生物工学コースがある。

2. 出願資格

- (1) 工業高等学校又は高等学校の工業に関する学科を卒業した者及び平成29年3月卒業見込みの者
- (2) 中等教育学校の工業に関する学科を卒業した者及び平成29年3月卒業見込みの者
- (3) 高等学校を卒業した者及び平成29年3月卒業見込みの者
- (4) 中等教育学校を卒業した者及び平成29年3月卒業見込みの者
- (5) 高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

※ 出願資格(5)で出願しようとする者は、出願資格等の確認をしますので、平成28年7月8日(金)までに本校学生課教務係まで電話等により問い合わせください。

3. 志望学科

出願資格(1)、(2)の者

志望学科は、次のとおり出身高等学校における所属科と同系統であること。

志 望 学 科	高 等 学 校 の 所 属 科
機 械 工 学 科	機械及びこれに関連する科
電 気 電 子 工 学 科	電気、電子及び情報に関連する科
電 子 制 御 工 学 科	
制 御 情 報 工 学 科	機械及び情報に関連する科
物 質 化 学 工 学 科	化学及びこれに関連する科

出願資格(3)～(5)の者

5学科いずれも可

4. 願書受付期間及び場所

(1) 受付期間

平成28年7月19日(火)から平成28年7月22日(金)まで。
受付時間は、9時から16時までとする。
郵送の場合は、平成28年7月22日(金) 16時必着とする。

(2) 受付場所及び問い合わせ先

〒802-0985 北九州市小倉南区志井5丁目20番1号
北九州工業高等専門学校 学生課教務係
TEL (093) 964-7232
FAX (093) 964-7236

5. 出願手続

志願者は、次の出願書類等を一括し、各注意事項を確認の上、提出すること。

- (1) 編入学志願書 本校所定の用紙を使用すること。
- (2) 写真票・受検票 本校所定の用紙に必要事項を記入し、写真を所定の位置に貼付する。
写真は、上半身・正面向き・脱帽・無背景(縦4.5cm×横3.5cm)で、出願以前3か月以内に撮影したもの。
- (3) 調査書 出身学校所定の用紙により、学校長が作成し厳封したもの。
- (4) 卒業証明書又は卒業見込証明書 出身学校所定の用紙で作成したもの。
- (5) 住所票 「合格通知書」等を送付するためのもので、本校所定の用紙にその通知を受ける住所、氏名、郵便番号を記入したもの。
- (6) 検定料 16,500円
銀行または郵便局(ゆうちょ銀行)の窓口において振込のうえ、受付日付のある「振込受付証明書」または「振替払出請求書預金口座振替による振込受付書」を必ず受け取り、「検定料振込証明書貼付票」の所定の位置に貼付すること。
- (7) 返信用封筒 定形封筒(長型3号)に自己の住所、氏名、郵便番号を明記し、切手392円(簡易書留料金を含む)を貼ること。ただし、この封筒は、受検票等を郵送するためのもので、**出願書類等を持参する場合は不要。**

※出願に必要な書類は本校ウェブサイトからダウンロードして下さい。

(http://www.kct.ac.jp/nyushi/hennyugaku_boshu.html)

[注 意]

- (1) 出願書類等を郵送する場合は、簡易書留郵便とし、封筒の表に「**編入学出願書類在中**」と朱書すること。
- (2) 出願書類等の不備なものは受け付けない。
- (3) 出願書類等受理後は、記載事項の変更、書類の返還及び検定料の払い戻しは一切行わない。
- (4) 出願書類等に虚偽の記入をした者は、入学後でも入学許可を取り消すことがある。

6. 選抜方法

- ・機械工学科・電気電子工学科・電子制御工学科・制御情報工学科を志望する者
 入学者の選抜は、学力検査及び調査書により総合判定する。
- ・物質化学工学科を志望する者
 入学者の選抜は、学力検査、調査書及び面接により総合判定する。

(1) 学力検査科目及び出題範囲

学力検査科目		出 題 範 囲
(各学科共通) 共通科目	数 学	<ul style="list-style-type: none"> ● 数学Ⅰ (データの分析 を含まない) ● 数学A (図形の性質 を含まない) ● 数学Ⅱ ● 数学B (確率分布と統計的な推測 を含まない)
	英 語	コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ
※専 門 科 目	【口頭試問】 機 械 工 学 科 電 気 電 子 工 学 科 電 子 制 御 工 学 科 制 御 情 報 工 学 科	出願資格(1)、(2)の者 機械工学科 1. 機械設計(力と運動、材料の強さを含む) 2. 機械工作 3. 原動機(熱や流体のエネルギーを含む) 4. 機械製図 電気電子工学科 1. 直流回路 2. 交流回路 3. 電気磁気 電子制御工学科 1. 電気と磁気・静電気 2. 直流回路、単相の交流回路 3. 電子回路(ゲート回路、トランジスタ回路のみ) 4. 情報処理(C言語、論理回路) 制御情報工学科 1. 電気回路(デジタル回路を含む) 2. プログラミング(C言語) 3. 物理(力学)
	【筆記試験】 物質化学工学科	出願資格(3)～(5)の者 物理基礎、物理 出願資格(1)、(2)の者 工業化学専門科目 出願資格(3)～(5)の者 化学基礎、化学

※機械工学科・電気電子工学科・電子制御工学科・制御情報工学科の専門科目は、口頭試問で行う。
 物質化学工学科の専門科目は、筆記試験で行う。

(2) 学力検査及び面接の日時

月 日	検 査 科 目	時 間	
		機械・電気電子・ 電子制御・制御情報工学科	物質化学工学科
9月5日(月)	集 合 時 間	9 : 4 0	
	共通科目	数 学	1 0 : 0 0 ~ 1 1 : 0 0
		英 語	1 1 : 1 0 ~ 1 2 : 1 0
	専 門 科 目	1 3 : 1 0 ~	1 3 : 1 0 ~ 1 5 : 1 0
	面 接		1 5 : 2 0 ~

※専門科目の試験には、電卓の使用を認める。ただし、プログラム機能付きのものは認めない。

※口頭試問は1人につき20分程度、面接は1人につき10分程度である。

(3) 学力検査場 北九州工業高等専門学校

7. 合格者発表

平成28年9月12日(月)10時

本校に掲示するとともに、合格者には合格通知書、出身高等学校長には選抜結果の通知書を上記日時以降に発送します。

また、本校ウェブサイト (<http://www.kct.ac.jp/>) にも掲載します。(合格発表日の10時頃を予定。当日の通信環境の状況等により遅れる場合があります。)

なお、電話等による合否の問い合わせには応じられません。

8. 個人情報の取扱い

入学志願者から提出された志願書や調査書等に記載されている情報及び選抜に用いた試験成績・評価といった入学者選抜を通じて取得した個人情報は、入学者選抜の資料として利用するとともに、次の目的のためにも利用します。

- (1) 入学後の教育・指導
- (2) 入学料、授業料免除申請の審査
- (3) 奨学金申請の審査
- (4) 本校及び国立高等専門学校全体の教育制度・入学者選抜制度の改善のための調査・研究

9. 入学手続

入学手続は次により行うが、詳細については合格者に別途通知する。

- ① 日程 平成29年3月15日(水)
- ② 場所 北九州工業高等専門学校
- ③ その他 所定の日時内に入学手続きを完了しない者は、入学を許可しない。

10. その他

身体に障害等がある入学志願者は、本校に事前に相談すること。

本校に入学を志願するもので、身体に障害等があり、受検上及び修学上特別な配慮を必要とする場合は、次により申し出ること。

- ① 申し出の期限

平成28年7月8日(金)

- ② 申し出の方法

必要事項を記載した申請書(様式は任意)に医師の診断書又は身体障害者手帳の写しを添付して提出すること。

必要な場合は、本校において志願者及び保護者・高等学校関係者等と面談を行うことがあります。

なお、申請書は原則として在籍高等学校を経由して提出すること。

「申請書記載事項」

- | | |
|----------------------|---------------------|
| (ア) 氏名、志望学科 | (イ) 障害等の種類、程度 |
| (ウ) 受検上特別の配慮を希望する事項 | (エ) 修学上特別の配慮を希望する事項 |
| (オ) 高等学校でとられていた特別な措置 | (カ) 日常生活の状況 |

学 校 案 内

1. 本校の創設及び沿革

我が国産業の目覚ましい発展に伴い、科学技術者の養成が強く要望され、昭和37年度から新たな学校制度としての高等専門学校が発足した。

北九州工業高等専門学校は、この新しい高等教育機関の一つとして工業に関する専門教育を受け、産業の興隆並びに文化の発展に貢献し得る有能な技術者を育成するため、昭和40年4月1日工業都市北九州市に創設された。当時は、機械工学科（定員80名）、電気工学科（定員40名）の2学科で発足したが、昭和45年度には化学工学科（定員40名）、昭和62年度には電子制御工学科（定員40名）が新たに増設され、平成元年度には、従来の機械工学科（定員80名）が、機械工学科（定員40名）と制御情報工学科（定員40名）の2学科に改組された。平成10年度には、化学工学科が物質化学工学科に改組され、平成14年度には、電気工学科が電気電子工学科に改名された。平成16年度には、独立行政法人国立高等専門学校機構法により独立行政法人国立高等専門学校機構が設置する北九州工業高等専門学校となった。平成27年度には準学士課程の高度化・再編を図り、5学科を生産デザイン工学科の1学科（第3学年から、機械創造システム、知能ロボットシステム、電気電子、情報システム、物質化学の5コース）に改組された。

また、平成8年度には、生産工学専攻、制御工学専攻、化学工学専攻の3専攻をもつ専攻科（大学課程相当）が設置された。平成16年度には、化学工学専攻が物質化学工学専攻に改名された。更に、平成27年度から3専攻を統合し生産デザイン工学専攻に改組された。平成18年5月には、準学士課程第4学年から専攻科第2学年までの4年間の「生産デザイン工学」教育プログラムが、日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を受けた。

2. 本校の教育目的及び具体的な目標

本校では、「明るい未来を創造する開拓型エンジニアの育成」を目指し、次のような3つの教育目的を掲げ、さらに具体的にA～Gに示す学習・教育目標を設定して学生の指導にあたっている。

（教育目的）

- ☆ 幅広い工学基礎と創造的技術開発力を育む技術者教育の実現
- ☆ 国際社会で尊敬され、信頼される国際センスを育む技術者教育の実現
- ☆ 地球に優しい技術を開発できる心豊かな人間性を育む技術者教育の実現

（学習・教育目標）

A 技術内容を理解できる基礎学力（数学、自然科学、情報）と自己学習能力を持つ技術者

- ①数学・物理・化学などの自然科学、情報技術に関する基礎を理解できる。
- ②自主的・継続的な学習を通じて、基礎科目に関する問題を解くことができる。

B 専門分野における基礎知識を身に付けた技術者

- ①専門分野における工学の基礎を理解できる。
- ②自主的・継続的な学習を通じて、専門工学の基礎科目に関する問題を解くことができる。

C 専門工学基礎知識の上に実践的技術を学んだ技術者

- ①実験や実習を通じて、問題解決の実践的な経験を積む。
- ②機器類（装置・計測器・コンピュータなど）を用いて、データを収集し、処理できる。
- ③実験結果から適切な図や表を作り、専門工学基礎知識をもとにその内容を考察することができる。
- ④実験や実習について、方法・結果・考察をまとめ、報告できる。

D 身に付けた工学知識・技術をもとにして問題を解決する能力を有する技術者

- ①専門工学の基礎に関する知識と基礎技術を総合し、活用できる。

- ②工学知識や技術を用いて、課題解決のための調査や実験を計画し、遂行できる。
- ③工学知識や技術を用いて、課題解決のための結果の整理・分析・考察・報告ができる。

E 多様な文化を理解するための教養を持ち、日本語および外国語によるコミュニケーションの基礎能力を有する技術者

- ①歴史・文化・国語・外国語を学び、コミュニケーションするための基礎的な教養を身に付ける。
- ②日本語で論理的に記述し、報告・討論できる。
- ③英語によるコミュニケーションの基礎能力（読解・記述・会話）を身に付ける。

F 歴史・文化・社会に関する教養を持ち、技術の社会・環境とのかかわりを考えることのできる技術者

- ①歴史・文化・社会に関する基礎的な知識を身に付ける。
- ②工業技術と社会・環境との関わりを考えることができる。
- ③技術者としての役割と責任を認識できる。

G 社会の一員としての自覚、倫理観を持ち、心豊かな人間性を有する技術者

- ①健やかな心身をもち、社会性、協調性を身に付ける。
- ②社会人として、技術者として必要な素養、一般常識や礼儀、マナーについて考えることができる。

3. 「生産デザイン工学」教育プログラム

平成16年度からは、「生産デザイン工学」教育プログラムを設定している。この教育プログラムは、日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を受けたもので、編入学直後の第4学年次から第5学年次を経て、専攻科第1および第2学年次までの4年間を対象としている。編入学者は全員この教育プログラムの少なくとも前期2年間の履修対象者となる。

4. 所在地

〒802-0985 北九州市小倉南区志井5丁目20番1号

JR小倉駅からJR日田彦山線で志井公園駅まで約20分(下車徒歩15分)、JR小倉駅前バス停から主に34番系統バスで北九州高専前バス停まで約40分(下車徒歩2分)、小倉駅からモノレールで志井駅又は企救丘駅まで約18分(下車徒歩15分)。都心を離れた閑静な地に位置し、勉学に極めて恵まれた環境にある。

5. 教育課程

一般科目（各学科共通）

授業科目		単位数	学年別配当					備考	
			1年	2年	3年	4年	5年		
必修科目	国語	国語 I	2	2					
		国語 II	2		2				
		現代文学	2			2			
		近現代文学	2				2		
	社会	地理	2	2					
		公共倫理	2		2				
		現代社会	2		2				
		歴史	2			2			
	数学	基礎数学 I	4	4					
		基礎数学 II	2	2					
		微分積分 I	4		4				
		微分積分 II	4			4			
		代数幾何 I	2		2				
		代数幾何 II	2			2			
	理科	物理 I	4		4				
		化学	4	2 (4)	2 (0)			() は物質化学工学科	
	保健・体育	基礎情報処理	2	2					
		保健	1	1					
		体育 I	2	2					
		体育 II	2		2				
		体育 III	2			2			
		体育 IV	2				2		
		音楽	1	1					
		外国語	英語 A I	4	4				
英語 A II			4		4				
英語 A III			2			2			
英語 A IV	2					2			
英語 B I	2		2						
英語 B II	2				2				
英語 C	2				2				
必修科目単位数計		72	24 (26)	24 (22)	16	6	2	() は物質化学工学科	
選択科目	基礎ネットワーキング		2			2		自由選択	
	応用ネットワーキング		2				2	自由選択（基礎ネットワーキング単位取得者のみ）	
	他高専・大学での履修科目							自由選択、単位の認定は別に定める	
	第2外国語		6			6		ドイツ語・中国語・韓国語の中から1言語・2単位修得 留学生は本科目に替え日本語を修得	
	日本語		2			2		留学生科目、留学生は第2外国語に替え2単位修得	
	社会選択	文化交流史	4				2	2	前期・後期 4年で2単位、 5年で2単位 修得
		哲学・倫理学	4				2	2	
		文化地理学	4				2	2	
		法社会学	2				1	1	
		経済学	2				1	1	
	一般総合選択	日本文学論	1				1		前期・後期 前期で1単位 後期で1単位 修得
		社会特論	1				1		
		体育特論	1				1		
		数学演習	1				1		
数学特論		1				1			
英語特論		1				1			
英語演習		1				1			
選択科目開設単位数計		*33			*6	17	10		
選択科目修得単位数計		8			2	4	2		
開設単位数計		*105	24 (26)	24 (22)	*22	23	12	() は物質化学工学科	
修得単位数計		80	24 (26)	24 (22)	18	10	4	() は物質化学工学科	

※ 留学生科目を除いた単位数

機械工学科

授 業 科 目		単位数	学 年 別 配 当					備 考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必 修 科 目	物 理 II	2			2			
	物 理 演 習	1			1			物理実験を含む
	応 用 数 学	2				2		
	確 率 ・ 統 計 基 礎	1					1	
	機 械 工 学 基 礎	2	2					
	情 報 処 理	2		2				
	数 値 計 算 法	2			2			
	材 料 学 I	1		1				
	材 料 学 II	1			1			
	生 物 工 学 概 論	1					1	
	機 構 学	1			1			
	工 業 力 学	2			2			
	材 料 力 学 I	2			2			
	材 料 力 学 II	2				2		
	熱 力 学	2				2		
	熱 機 関 工 学	2					2	
	伝 熱 工 学	2					2	
	水 力 学	2				2		
	流 体 力 学	2					2	
	機 械 工 作 法 I	1	1					
	機 械 工 作 法 II	2		2				
	機 械 加 工 学	1				1		
	設 計 工 学 I	1			1			
	設 計 工 学 II	2				2		
	機 械 工 学 演 習	1				1		
	基 礎 製 図	2	2					
	機 械 製 図 I	2		2				
	機 械 製 図 II	2			2			CADを含む
	設 計 製 図 I	2				2		
	設 計 製 図 II	2					2	
	電 気 電 子 工 学	2				2		
	振 動 工 学	1				1		
自 動 制 御 I	1				1			
自 動 制 御 II	1					1		
メカトロニクス工学	2					2		
工 業 英 語 I	1			1				
工 業 英 語 II	1				1			
工 学 基 礎 実 験	2	2						
工 作 実 習 I	2	2						
工 作 実 習 II	3		3					
機 械 工 学 実 験 I	3				3			
機 械 工 学 実 験 II	3					3		
卒 業 研 究	8					8		
必 修 科 目 単 位 数 計		80	9	10	15	22	24	
選 択 科 目	応 用 物 理	1				1		3 単位以上修得
	材 料 力 学 III	1				1		
	新 素 材 材 料 学	1				1		
	学 外 実 習	1				1		
	長 期 学 外 実 習	3				3		
	工 作 実 習 基 礎	1				1		4 単位以上修得
	流 体 機 械	1					1	
	C A E 演 習	1					1	
	精 密 加 工 学	1					1	
	基 礎 デ ィ ジ タ ル 回 路	1					1	
ロ ボ ッ ト 工 学	1					1		
工 業 英 語 演 習	1					1		
品 質 管 理	1					1		
選 択 科 目 開 設 単 位 数 計		15				8	7	
選 択 科 目 修 得 単 位 数 計		7				3	4	
専 門 科 目 開 設 単 位 数 計		95	9	10	15	30	31	
専 門 科 目 修 得 単 位 数 計		87	9	10	15	25	28	
一 般 科 目 開 設 単 位 数 計		※109	24	24	※22	25	14	
一 般 科 目 修 得 単 位 数 計		80	24	24	18	10	4	
開 設 総 単 位 数 計		※204	33	34	※37	55	45	
修 得 総 単 位 数 計		167	33	34	33	35	32	

※ 留学生科目を除いた単位数

電気電子工学科

授 業 科 目		単位数	学 年 別 配 当					備 考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	応用数学Ⅰ	2				2		
	応用数学Ⅱ	2					2	
	物 理 Ⅱ	2			2			
	応用物理	2				2		
	電気電子製図	2	2					
	情報処理Ⅰ	1	1					
	情報処理Ⅱ	2		2				
	情報処理Ⅲ	2			2			
	数値計算法	2				2		
	画像処理工学	1					1	
	電気電子基礎演習	2		2				
	電気電子工学演習Ⅰ	2				2		
	電気電子工学演習Ⅱ	1					1	
	電気回路Ⅰ	1	1					
	電気回路Ⅱ	2		2				
	電気回路Ⅲ	2			2			
	電気回路Ⅳ	2				2		
	電気電子計測工学	1				1		
	電気磁気学Ⅰ	2			2			
	電気磁気学Ⅱ	2				2		
	電子回路Ⅰ	2			2			
	電子回路Ⅱ	2				2		
	電子工学	2				2		
	電気電子材料	2					2	
	電気機器Ⅰ	2			2			
	電気機器Ⅱ	1				1		
	デジタル回路Ⅰ	1				1		
	デジタル回路Ⅱ	1					1	
	基礎制御工学Ⅰ	2				2		
	基礎制御工学Ⅱ	1					1	
	パワーエレクトロニクス	1					1	
	高電圧工学	2					2	
	通信工学	2					2	
電力システム工学	2					2		
エネルギー変換工学	1					1		
工業英語	1					1		
電子回路製作実習	1				1			
工学基礎実験	2	2						
電気電子基礎工学実験	2	2						
電気電子計測工学実験	3		3					
電気電子情報工学実験	3			3				
電気電子制御工学実験	3				3			
電気電子応用工学実験	2					2		
卒業研究	9					9		
必修科目単位数計	85	8	9	15	25	28		
選択科目	学 外 実 習	1				1	2単位以上修得	
	レ ー ザ 工 学	1				1		
	電気法規及び施設管理	1				1		
	品 質 管 理	1				1		
	ロ ボ ッ ト 工 学	1				1		
選択科目開設単位数計	5				1	4		
選択科目修得単位数計	2				0 (1)	2 (1)	()は「学外実習」修得の者	
専門科目開設単位数計	90	8	9	15	26	32		
専門科目修得単位数計	87	8	9	15	25 (26)	30 (29)	()は「学外実習」修得の者	
一般科目開設単位数計	*109	24	24	*22	25	14		
一般科目修得単位数計	80	24	24	18	10	4		
開設総単位数計	*199	32	33	*37	51	46		
修得総単位数計	167	32	33	33	35 (36)	34 (33)	()は「学外実習」修得の者	

※ 留学生科目を除いた単位数

電子制御工学科

授 業 科 目		単位数	学 年 別 配 当					備 考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必 修 科 目	応 用 数 学	4				2	2	
	物 理 II	2			2			
	工 業 英 語	1					1	
	力 学	2			2			
	電 気 磁 気 学	2				2		
	電 気 回 路 I	1	1					
	電 気 回 路 II	2		2				
	電 気 回 路 III	1			1			
	電 気 回 路 特 論 I	1				1		
	電 磁 波 ・ 光 工 学	2					2	
	電 子 基 礎	2	2					
	電 子 物 性	1				1		
	電 子 回 路 I	2			2			
	電 子 回 路 II	2				2		
	パ ル ス 回 路	2					2	
	情 報 伝 送	2				2		
	計 測 工 学 I	1			1			
	計 測 工 学 II	1			1			
	制 御 機 器 I	2				2		
	制 御 機 器 II	2					2	
制 御 理 論 I	2				2			
制 御 理 論 II	2					2		
信 号 処 理	2					2		
制 御 基 礎	2	2						
情 報 処 理 I	2		2					
情 報 処 理 II	2			2				
情 報 処 理 III	1				1			
情 報 処 理 演 習	2					2		
論 理 回 路	2		2					
電 子 計 算 機 I	1			1				
電 子 計 算 機 II	1			1				
計 算 機 シ ス テ ム I	1				1			
数 値 計 算 法	2				2			
制 御 工 学 演 習	1					1		
シ ム ュ レ ー シ ョ ン	2					2		
工 学 基 礎 実 験	2	2						
電 子 制 御 工 学 実 験 実 習	11		3	3	3	2		
卒 業 研 究	9					9		
必 修 科 目 単 位 数 計	82	7	9	16	21	29		
選 択 科 目	電 気 回 路 特 論 II	1				1		3 単 位 以 上 修 得
	情 報 処 理 IV	1				1		
	計 算 機 シ ス テ ム II	1				1		
	長 期 学 外 実 習	3				3		
	学 外 実 習	1				1		2 単 位 以 上 修 得
	半 導 体 工 学	1					1	
	シ ス テ ム 工 学	1					1	
	人 工 知 能	1					1	
ロ ボ ッ ト 工 学	1					1		
選 択 科 目 開 設 単 位 数 計	11				7	4		
選 択 科 目 修 得 単 位 数 計	5				3 (4)	2 (1)	()は「学外実習」修得の者	
専 門 科 目 開 設 単 位 数 計	93	7	9	16	28	33		
専 門 科 目 修 得 単 位 数 計	87	7	9	16	24 (25)	31 (30)	()は「学外実習」修得の者	
一 般 科 目 開 設 単 位 数 計	※109	24	24	※22	25	14		
一 般 科 目 修 得 単 位 数 計	80	24	24	18	10	4		
開 設 総 単 位 数 計	※202	31	33	※38	53	47		
修 得 総 単 位 数 計	167	31	33	34	34 (35)	35 (34)	()は「学外実習」修得の者	

※ 留学生科目を除いた単位数

制御情報工学科

授 業 科 目		単位数	学 年 別 配 当					備 考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必 修 科 目	制 御 数 学	2				2		
	数 値 計 算 法	2					2	
	物 理 II	2			2			
	情 報 処 理	2		2				
	コ ン ピ ュ ー タ 基 礎	2			2			
	ア ル ゴ リ ズ ム	2				2		
	コ ン ピ ュ ー タ ア ー キ テ ク チ ャ I	1				1		
	力 学	2			2			
	材 料 力 学 I	2			2			
	材 料 力 学 II	1				1		
	熱システム工学I	2				2		
	熱システム工学II	1					1	
	水 力 学	2				2		
	流 動 シ ス テ ム 工 学	3					3	
	機 械 工 作 法	2				2		
	機 械 工 作 法	2			2			
	セ ン サ 工 学	3			3			
	基 礎 制 御 工 学	2				2		
	制 御 工 学	2					2	
	電 気 電 子 基 礎	2		2				
	デ ィ ジ タ ル 回 路	3			3			
	工 業 英 語	1					1	
	基 礎 製 図	3	2	1				
	C A D	2		2				
	制 御 基 礎 演 習	1		1				
	ロ ボ ッ ト 基 礎 演 習	2		2				
電 気 磁 気 学	2				2			
シ ス テ ム 制 御 工 学	2					2		
メ カ ト ロ ニ ク ス 機 構 学	1				1			
メ カ ト ロ ニ ク ス 工 学	3					3		
工 学 基 礎 実 験	2	2						
加 工 実 習	3	3						
設 計 製 作	4				2	2		
制 御 情 報 実 験	3				3			
応 用 制 御 情 報 実 験	2					2		
卒 業 研 究	9					9		
必 修 科 目 単 位 数 計	82	7	10	16	22	27		
選 択 科 目	長 期 学 外 実 習	3				3	3 単位修得	
	コ ン ピ ュ ー タ ア ー キ テ ク チ ャ II	1				1		
	機 械 力 学	1				1		
	図 形 処 理 工 学	1				1		
	学 外 実 習	1				1	2 単位以上修得	
	品 質 管 理	1				1		
ロ ボ ッ ト 工 学	1					1		
選 択 科 目 開 設 単 位 数 計	9				7	2		
選 択 科 目 修 得 単 位 数 計	5				(3) (4)	(2) (1)	()は「学外実習」修得の者	
専 門 科 目 開 設 単 位 数 計	91	7	10	16	29	29		
専 門 科 目 修 得 単 位 数 計	87	7	10	16	25 (26)	29 (28)	()は「学外実習」修得の者	
一 般 科 目 開 設 単 位 数 計	*109	24	24	*22	25	14		
一 般 科 目 修 得 単 位 数 計	80	24	24	18	10	4		
開 設 総 単 位 数 計	*200	31	34	*38	54	43		
修 得 総 単 位 数 計	167	31	34	34	35 (36)	33 (32)	()は「学外実習」修得の者	

※ 留学生科目を除いた単位数

物質化学工学科

授 業 科 目		単位数	学 年 別 配 当					備 考
			1年	2年	3年	4年	5年	
共通必修科目	生 物 学	2	2					
	基礎化学演習Ⅰ	1	1					
	基礎化学演習Ⅱ	1	1					
	基礎化学演習Ⅲ	1		1				
	分析化学	2		2				
	無機化学Ⅰ	2		2				
	情報処理	2		2				
	有機化学Ⅰ	2		2				
	有機化学Ⅱ	2			2			
	基礎生物化学	1		1				
	生命化学	1			1			
	基礎化学工学	2			2			
	物理Ⅱ	2			2			
	応用物理	2				2		
	物質化学工学設計製図	4			2	2		
	物理化学Ⅰ	2			2			
	物理化学Ⅱ	2				2		
	物理化学Ⅲ	2					2	
	高分子化学	2				2		
	化工数学	2				2		
	工業英語	1				1		
	物理化学演習単位	1				1		
	機械工学基礎	4				4		
	電気工学基礎	1					1	
	品質管理	1					1	
	環境資源エネルギー工学	1					1	
基礎生物化学工学	2					2		
生物反応工学	1					1		
工学基礎実験	2	2						
基礎化学実験	1		1					
無機・分析化学実験	2			2				
有機化学実験	2			2				
物理化学実験	2				2			
卒業研究	10					10		
共通必修科目単位数計		69	6	11	15	19	18	
応用化学工学コース必修科目	計算機化学	1				1		
	安全工学	1				1		
	無機化学Ⅱ	2				2		
	精密分離工学	1					1	
	触媒化学	1					1	
	物質工学	2					2	
	化学反応工学	1					1	
	応用化学工学演習	2					2	
	応用化学工学実験	2				2		
機器分析実験	2					2		
応用化学工学コース必修科目単位数計		15				6	9	
生物化学工学コース必修科目	食品殺菌工学	1				1		
	生物材料化学	1				1		
	食品工学	2				2		
	酵素工学	1					1	
	発酵工学	1					1	
	生物化学工学演習	1					1	
	微生物工学	2					2	
	応用生物工学	2					2	
生物工学実験	2				2			
生物化学工学実験	2					2		
生物化学工学コース必修科目単位数計		15				6	9	
共通選択科目	学 外 実 習	1				1		共通選択科目は、4・5年で3単位修得
	遺 伝 子 工 学	1					1	
	構 造 解 析 学	1					1	
	高 分 子 材 料 工 学	1					1	
共通選択科目単位数計		5				1	4	
専門科目開設単位数計		104	6	11	15	32	40	
専門科目修得単位数計		87	6	11	15	(26) (29)	()は「学外実習」修得の者	
一般科目開設単位数計		※109	26	22	※22	25	14	
一般科目修得単位数計		80	26	22	18	10	4	
開設総単位数計		※213	32	33	※37	57	54	
修得総単位数計		167	32	33	33	(36) (33)	()は「学外実習」修得の者	

※ 留学生科目を除いた単位数

6. 学科紹介

(1) 機械工学科

現代の機械工学は、材料やエレクトロニクスの発展に支えられてその進歩が加速され、産業界については、その規模の拡大とメカトロニクス化の浸透が著しく、機械技術者の活躍する分野も多種多様で、かつ専門化されている。

本校機械工学科は、機械工学の基礎的知識と技術を一般教養と併せて習得させ、機械工学に関する基礎理論の理解と応用に力を入れるとともに、自動化や先端技術に関する教科も少なからず充実させて、目覚ましい技術革新に対応できる機械エンジニアを育成することを目標としている。

以上の目標のために機械工学科においては、実践的授業を比較的多く設け工作実習、設計製図は低学年から実施し、電子計算機に関する授業は数多くのパーソナル・コンピュータを、工学実験はマシニングセンタなど充実した実験設備を、それぞれ設置して高学年で実施している。また、エネルギー工学、生産工学、情報処理、CAD演習など時代の要請に応じたカリキュラムの変更を行い、特に最高学年の卒業研究では、教員と学生との密接な接触を通じて、専門的な知識とともに豊かな人間性、判断力、創造力も身に付けるよう努力している。一方、他の関連学科である電気工学及びその実験についても高学年で十分履修し、さらに、高学年での選択科目にはロボット工学、新素材材料学、メカトロニクス工学、品質管理などを導入して、高度技術の発達にも対応できるように努めている。

(2) 電気電子工学科

最近の先端技術の進歩、発展は目覚ましく、各専門分野の細分化・高度化・複合化・総合化により、新分野が開拓促進される傾向がある。

電気電子工学科には、電気工学・電子工学の基礎の上に、電力応用機器・エネルギー変換機器等のような電力工学分野、電気機械やプラントなど複雑なシステムを人間の望むとおりに動かす制御工学分野、各種集積回路を用いたハードウェア及び種々のコンピュータソフトウェアの構築等の情報通信工学分野、磁性体薄膜・ダイヤモンド薄膜のような各種電子材料や新しい光デバイスを含む種々の光応用機器等の電子工学分野等が含まれており、これらの知識と技術を総合的に身に付けた技術者の養成を目的とする。すなわち、現在の電気工学、電子工学、情報通信工学、制御工学について、技術の基礎にある考え方・方法及び今後の発展の基礎となる考え方を体系付けて与え、将来にわたる技術革新に対応できる基礎学力を培うことに重点を置いた教育課程である。

電気電子工学科の目標は、どの分野に就職しても、基礎に立ち戻り、創造的に考えることのできる能力と活力に満ちた、将来性豊かな技術者を養成して、実社会に即応できる卒業生を送り出すことである。

なお、本学科は、電気主任技術者免状に係る学校の認定を受けており、卒業後所定の実務経験を積み、電気事業法に基づく第2種主任技術者の免状を得ることができる（高等学校での履修科目によっては資格が得られない場合がある）。

(3) 電子制御工学科

情報、電子、通信、制御系の技術革新は目覚しく、特に、最近のコンピュータ応用分野の急速な発展に対し、情報技術やシステム制御分野の技術を支える実践的技術者の育成が求められている。電子制御工学科では、情報とシステムのハードウェアとソフトウェアの両方の基礎的知識を体系的に身につけることにより、高度情報化社会の技術変化に柔軟に対応できる、理解力と創造力を持った人材の育成を目的としている。

この目的を達成するため、本学科では、(1)電気電子工学、(2)情報工学、(3)システム制御工学の3つの分野を柱とした教育課程を構成している。カリキュラムはそれぞれの分野について専門科目を系統立てて配置しており、低学年では、エンジニアとして必要な共通の基礎知識と、専門工学の基礎知識を学び、学年が進むにつれて3つの分野の専門科目及びシステムのハードウェアとソフトウェアに関する実践的な技術を詳しく学ぶ。同時にこれらの専門科目の理解を深め、実践的な

応用力を育成するため、実験実習や演習科目を各学年にわたり取り入れている。さらに最終学年ではそれまでに学んだ知識や経験の集大成として卒業研究を行い、最近の技術者に求められる問題解決のための総合的な能力や技術者としてのコミュニケーション能力等の育成を図っている。

(4) 制御情報工学科

近年、産業界では、各種の小規模な製造機器・装置から大規模なプラントに至るまで、コンピュータを用いて制御するのが主流である。これからは、作業の省力化や生産性及び製品精度の向上のために、コンピュータの高度な利用や適用範囲がますます拡大してゆくのは確実である。このようにコンピュータを用いて何かを制御するためには、その何か即ち制御する対象を十分に知り、コンピュータを用いた情報処理技術と、コンピュータと機器装置類とを仲介するインターフェイス技術が必要となり、これらの理論的知識と実践的技術を習得したエンジニアの育成が強く望まれている。本学科では、機械システムを制御・知能化するために、機械工学・制御工学・コンピュータ応用を3本の柱にした広い知識と技術を持ち、インターフェイス技術に柔軟に対応できる能力を持つ技術者の育成を目指している。

総合的思考力・判断力を持つように指導するのが本学科のねらいであり、そのために基礎的科目の理解に最重点を置くカリキュラムにし、開講科目数は最小限に絞ってある。生きた技術を身につけるには理論と体験学習の調和が重要であるから、講義・実験実習・設計製作の学習を合理的に取り入れている。最終学年では卒業研究を重視し、教員と学生が密接に接しながら問題解決能力と豊かな人間性を養成すべく研究活動を行う。

(5) 物質化学工学科

物質化学工学は、従来、化学者が研究開発した成果の製造工程化に関する学問であると言われてきた。しかしながら、最近の工学技術の急速な展開は化学工業の領域を化学の分野のみにとどめず、物理や生物の分野にまで拡大してしまい、物質化学工学をして物質に関わる広い科学的知識を活用して社会に役立つシステムを創造する総合工学へと変身させつつある。すなわち、従来の化成品や医薬品の製造プロセスの開発は勿論、環境問題、クリーンエネルギーの開発、新素材の開発、人工臓器やバイオエンジニアリングへの挑戦等々、豊かな人間社会を確立するために解決しなければならぬ問題の多くに物質化学工学が関与している。従って、本学科では、物質化学工学の基礎に基づいて、4年次から応用化学工学コースと生物化学工学コースに分かれて学修することにより、多様化、高度化した物質化学工学分野に対処し得る専門知識を持ち、優れた技術開発能力を有する創造的技術者を育成することを目指している。

そのための教育課程として、人文・社会科学、生物を含む自然科学及び外国語等の一般科目に加えて、物質化学工学系共通専門科目とその実験実習及び情報処理、設計製図、応用数学、応用物理等の工学系共通科目を合理的に配置した共通必修科目の上に、生物工学、物質科学及びシステム工学に関連する多くの共通選択科目が開講されている。応用化学工学コースでは物質工学及び化学工学に関連する必修科目が、また生物化学工学コースでは生物化学工学に関連する必修科目が開講されている。

さらに、5年次においては両コース共に卒業研究を最も重視し、本学科での教育の総仕上げとしている。

7. 専攻科の概要

本校専攻科には高専本科卒業生を受入れて、2年間の高度な技術教育を行う「生産デザイン工学専攻」が設置されている。社会情勢、産業構造や工業技術が劇的に変化し続ける現代、これまで以上に、融合複合領域に対応できる幅広い視野と高い課題設定・解決能力を持ち、地域及びグローバルに連携・協働できる、実践的かつ創造的技術者の養成が求められている。このような社会的・地域的要請に応えるため、本校専攻科では、専門工学の深化とともに、これからのモノ作りに必要とされる【高度融合複合教育】を実施する。

8. 課外活動

課外活動とは、正課の授業時間外に行う学生の組織的な諸活動のすべてをいう。その活動を通して自己を生かし、組織の発展に寄与することは将来指導的立場に就く者にとって極めて貴重な経験である。このため本校の課外活動は、学校行事と併せ、学生が自主的に行うサークル活動が各方面にわたって活発に行われている。サークルには次のようなものがある。

◎ 体育関係

硬式野球部、バレーボール部、卓球部、バスケットボール部、ラグビー部、サッカー部、陸上部、水泳部、柔道部、剣道部、ハンドボール部、ソフトテニス部、テニス部、バドミントン部、弓道部、女子スポーツ部、空手道部

◎ 文化関係

ブラスバンド部、写真部、英会話研究部、コンピュータ研究部、美術部

◎ 愛好会・研究会等

郵便友の会、ギターコーラス同好会、文学愛好会、宇宙科学研究会、クロスカントリー愛好会、ロボコン、将棋愛好会、化学愛好会、ロボットデザイン研究会、KOSEN FabLab

9. 入学時に必要な諸経費（予定額）

入 学 料	84,600 円
授 業 料（前期分）	117,300 円（年額 234,600 円）
教 科 書 代	約 35,000 円
教 材 費	約 30,000 円
体育文化関係費他	62,400 円
合 計	約 329,300 円

※上記の納付金額は予定額であり、入学時及び在学中に学生納付金改定が行われた場合には、改定時から新たな納付金額が適用されます。

10. 奨学金制度

独立行政法人日本学生支援機構法に基づき、学業・人物が優れ、健康であり学資支弁困難と認められる者に対しては、選考の上、奨学金が貸与される。（貸与月額は、平成 28 年度分です。）

第 一 種 奨 学 金 (無 利 子)	貸 与 月 額		
	自 宅 通 学	45,000 円	30,000 円
自 宅 外 通 学	51,000 円		
第 二 種 奨 学 金 (有 利 子)	貸与月額		
	30,000 円		
	50,000 円		
	80,000 円		
	100,000 円		
120,000 円			

このほかに、県、市及び財団法人等による奨学金制度が数種ある。

11. 入学料、授業料の免除制度

(1) 次の場合には、入学料免除の申請ができる。

- ア. 入学前1年以内において、入学する者の学資を主として負担している者が死亡し、又は本人若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、入学料の納付が困難であると認められる場合
- イ. 前号に準ずる場合であって、校長が相当と認める事由がある場合、全額又は半額を免除される。

(2) 次の場合には、授業料免除の申請ができる。

- ア. 経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合
- イ. 本校に入学する者であって、入学前1年以内において、本人の学資を主として負担している者が死亡し、又は本人若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、授業料の納付が困難であると認められる場合
- ウ. 前号に準ずる場合であって、校長が相当と認める事由がある場合、全額又は半額を免除される。

(3) 次の場合には、入学料徴収猶予の申請ができる。

- ア. 経済的理由によって納付期限までに納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合
- イ. 入学前1年以内において、本人の学資を主として負担している者が死亡し、又は本人若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、入学手続き終了の日までに納付が困難であると認められる場合
- ウ. その他やむを得ない事由があると認められる場合

12. 学生寮

本校には、学校敷地内に学生寮が設置されている。

高専の学生寮は、共同生活を通じての有為な人間形成を設置の主目的としている。

そのため本校では、規律ある生活を通して互いに切磋琢磨しながら、協調心や忍耐力、他人への思いやりの心を養い、将来信頼される技術者になれるようにとの教育的見地から適切な生活指導を行っている。

寮生は、通学に時間がかからないため、時間的に余裕を持って、勉学や課外活動に励むことができるので、通学に長時間を要する者については、入寮することを勧める。学生寮の入寮定員は165名(うち女子学生28名)である。月額寮費(食費、光熱費、水道料等)は約50,000円である。

13. 就 職 状 況

求人は就職希望者の10倍以上あり、就職率は例年ほぼ100%である。
なお、卒業生の主な就職先は下記を参照。

- ・ 機械工学科

<http://w3-mech.kct.ac.jp/career/>

- ・ 電気電子工学科

<http://w3-eee.kct.ac.jp/career/>

- ・ 電子制御工学科

<http://itss.apps.kct.ac.jp/career>

- ・ 制御情報工学科

http://w3-cise.kct.ac.jp/grad_job.html

- ・ 物質化学工学科

<http://w3-chem.kct.ac.jp/shinro/index.htm>

14. 卒業後の進学

本校は、卒業生の、約半数が北九州高専専攻科や国立大学工学部を始めとして、理学部、経済学部などに進学している。更に、専攻科修了生の約半数は大学院に進学している。

なお、主な進学先は次のとおりである。

(高専卒業生)

【国公立大学】		【私立大学】
岩手大学	京都工芸繊維大学	上智大学
東北大学	奈良教育大学	日本大学
秋田大学	大阪大学	慶応義塾大学
茨城大学	大阪府立大学	東京都市大学
筑波大学	神戸大学	岡山理科大学
埼玉大学	兵庫県立大学	福岡工業大学
千葉大学	岡山大学	
東京大学	岡山県立大学	
東京農工大学	広島大学	
東京工業大学	山口大学	
首都大学東京	徳島大学	
電気通信大学	香川大学	
横浜国立大学	愛媛大学	
新潟大学	九州大学	
長岡技術科学大学	九州工業大学	
金沢大学	北九州市立大学	
福井大学	佐賀大学	
山梨大学	長崎大学	
信州大学	熊本大学	
岐阜大学	大分大学	
静岡大学	宮崎大学	
名古屋大学	鹿児島大学	
豊橋技術科学大学	琉球大学	
三重大学	北九州高専専攻科	
京都大学		

(専攻科修了生)

【国公立大学】		【私立大学】
筑波大学大学院	九州工業大学大学院	早稲田大学大学院
東京大学大学院	北九州市立大学大学院	
東京工業大学大学院	熊本大学大学院	
豊橋技術科学大学大学院	宮崎大学大学院	
大阪大学大学院	鹿児島大学大学院	
島根大学大学院	北陸先端科学技術大学院大学	
広島大学大学院	奈良先端科学技術大学院大学	
九州大学大学院	総合研究大学院大学	